



請願第 1 号

請願

町田市教育委員会
教育長 小池慎一郎様

2024年9月6日

請願者

住所

町田三中和山崎中の統合予定地を 本町田小跡地にする計画を白紙に戻すことを求める請願

(請願要旨)

町田三中和山崎中の統合予定地である「本町田スポーツ公園」の代替地が見つからないとの理由で、「本町田小跡地」にすることをこれまでの方針を変更して町田市教育委員会は決定しましたが、以下に述べる理由から中学校統合予定地としては妥当性がありませんので計画を白紙に戻すことを求めます。

(請願理由)

1. 運動場の面積が山崎中学校のおよそ半分しかない本町田小学校跡地に統合することは中学生の学ぶ権利を奪います

中学校の教育活動をすすめるにあたって、校地面積は小学校より広いことが求められます。何よりも運動場の面積は体育の授業、部活の利用から最低、今ある山崎中学校の校庭より広いことが求められます。二つの中学校が統合されるのですから生徒数も多くなり、授業に支障が及ばないことが求められます。

しかし、本町田小学校の運動場の面積は山崎中学校の校庭のおよそ半分しかありません。本町田小学校跡地に中学校二校も入れるような無謀な計画は中学生の学ぶ権利を奪うこととなります。体が大きい中学生を狭い学校に押し込めば、教育活動だけではない、生活指導上、様々な困難をもたらし、子どもたちにとっても、教職員にとっても負担が増え、よりよい教育環境とは言えません。

そこで、本町田小学校跡地を中学校の適正な運動場にするために「希望の森」を壊すことが前提となります。「希望の森」を壊すことは簡単でしょうが、復元することは二度とできないでしょう。「希望の森」を壊すと南面の住宅地との境は9メートル近い擁壁が作られることとなります。子どもたちの安全面は確保できるのでしょうか。また上部に住む住民との合意は図られているのでしょうか。

運動場の面積を比較すれば、今ある二校の中学校よりも、確実に教育環境が悪くなります。(山崎中学校、10476㎡、町田第三中学校8480㎡、本町田小学校5170㎡)

中学生の教育環境を悪くして、学ぶ権利を奪うことは認められません。

2 「希望の森」を壊すことを前提の統合は認められません

本町田小学校は2002年原小学校、緑小学校、本町田西小学校の三校を統合して原小学校の跡地に造られました。その際に最大の理由となったのが原小学校にあった「希望の森」の存在でした。教職員の多くは校舎もゆったりと造られ、校庭も広い緑小の跡地を望んでいましたが、原小地域の方々の「希望の森」に対する熱い思いを受け入れて原小跡地に合意しました。「希望の森」は原小学校の特色ある教育の大本を形成していました。理科教育、低学年の生活科、そして子供たちの遊びの場など四季を通じて「希望の森」とともに子どもたちが育っていました。学校統合以来、本町田小の教育にとってはなくてはならない存在として「希望の森」が大事にされ、今日まで受け継がれてきました。それをもう小学校としての役目を終えるから壊してもいいという今回の決定は、とても教育的な発想とは思えません。今回の小学校、中学校の統廃合が子どもたちを育てる教育の視点から進められてはいないことを自ら告白しているようにも見えます。「希望の森」を壊すことを前提とした統合は認められません。

3 教育委員会の手続きミスのために本町田小学校跡地を統合予定地にすることはやめてください

今ある二つの中学校には近隣の小学校から卒業生が通ってきます。二つの学校は地理的に遠いですから、どちらかの方に統合して通わせるには無理があると教育委員会は判断したのだと思います。ですから最初から「本町田スポーツ公園」というどちらからでも通えるところを計画したのだと思います。ところが、「本町田スポーツ公園」を山崎中学校と町田第三中学校の統合する計画は、公園の代替地を検討していなかったという大変無責任な計画でした。

教育委員会によるミスを棚に上げて、「本町田小学校跡地」を統合予定地にするとう発表しましたが、学校統廃合ありきで強引に計画を進めると、このようにミスが出るとまた新たな矛盾を引き起こしていくこととなります。教育委員会の手続きミスから生まれた今回の計画を白紙に戻し、より実現性の高い計画を作成してから発表することを強く求めます。今のままで山崎中学校も町田三中も存続させていくことはできないのか、このことも今後検討していただくようにお願いします。

以上三点を理由に、町田第三中学校と山崎中学校の統合予定地に本町田小学校廃校跡地にする計画を「白紙に戻す」ようにお願いします。

大事にされてきた「希望の森」を壊さないで、今後も地域の皆さん方に活用されていくことを強く望みます。